



食育の芽 19号



「を!に!で!」で育む「すみだの食育」とは?

振り返ったことで気づいた!

「すみだ食育推進リーダー育成講習会」（以下、講習会と略）が墨田区の主催で2023年10月から12月まで全7回行われ、そのうちの5回にgoodネットのメンバーが関わりました。このメンバーは、過去に講習会を受講し、その後、「すみだ食育 good ネット」を設立して食育推進リーダーとして活躍してきました。

その経験から受講者へ何を伝えたらよいのかを考え、自分たちのあゆみを振り返りました。講習会の「受講前」、「受講中」、「受講後」という視点で「何をしてきたか」、「何に取り組んだのか」を書き出しました。

でも、講習会修了後、食育推進リーダーとなる方には、それだけではなく「取組の裏側にどんな思いがあったのか」、「問題にぶつかった時どのように発想を転換し乗り越えてきたのか」を伝える必要があると気づいたのです。なぜなら、食育推進リーダーは、「すみだの食育」を創っていく人なので、活動の楽しさだけでなく、困難を乗り越えて推進する力が求められるからです。

そこで、「取り組んできたこと」と「その取組への思いや気づき」その「両方を1セットで捉える」ことにしました。

「を!に!で!」で伝える食育活動

食育活動の中には、料理教室、講習会、栽培体験などがあります。これは、講習会「を!」行う、栽培体験「に!」取り組むという、いわば「を!に!」です。同時に、その取組「で!」何を実現するのか、実現するためにはどうしたらよいのかを探りながら諦めずに活動を続けることで前進していきます。その結果、活動を通して多様な人とのつながりが生まれ、そこから様々な「を!に!」の取組へと展開し好循環が生まれていったのです。

振り返ってみると「すみだの食育」は、「を!に!で!」を大切にしてきたのです。そして、食育活動を「を!に!」と「で!」、「を!に!で!」という表現方法を使って講習会で伝え始めました。



「すみだの食育」活動の軸をどう育んできたのか？

講習会をきっかけに、「すみだの食育」を「を!に!で!」で捉え、これまでの墨田区食育推進計画の方針（官）と good ネットの実践（民）の両面から振り返りました。

すると、講習会に参加し、従来の食育の固定観念から「発想の転換」をしたことで「すみだの食育」の軸が育ち、墨田区がめざす食育の実現につながったことがわかりました。

発想の転換から「すみだの食育」の軸が育つ

講習会を受講前

「を!に!」の取組を意識 ～食を!育む、食に!取り組む～

講習会を受講する前は、料理講習会「を!」する、体験教室「に!」取り組む等、いわゆる食教育に取り組む（指導を行う）というイメージを持っていました。食育基本法

が制定され、「従来の食教育と何が違うんだろう」、「食育って何だろう?」と漠然と考えていました。



講習会を受講して

取組「で!」何を育むのか?に気づく ～食で!育む「すみだの食育」～

講習会を受講して、「すみだの食育」は「食を!育む」ではなく「食で!育む」のだとわかりました。「食」を手段に「人」を育むことだと気づいたのです。その瞬間から「すみだの食育」の扉が開き、多様な人たちが目的を共有し、世代、分野、地域をこえてつながり「協働」「で!」で進める取組の大切さを学びました。そして、人と人をつなぐことに手間をかけ、一人ひとりの夢や想いを重ね、共に創

り合うプロセスを通して、楽しい、豊かな取組が生まれ、まちづくりにつながることを知ったのです。

当時の墨田区食育推進行動計画〔2010（平成22）年4月〕には、「食」を通じたひとつづくり、「民」と「区」のしくみづくり、「すみだらしい食育文化」を育むまちづくりを目指すことと記されていました。

「食で!育む」の言葉に触れ、今までは「食を!育む」ことばかりをしていたと思い、深い意味を感じました。「すみだの食育」の取組は、この講習会に参加し「発想の転換」をすることから始まったのです。



講習会を受講後

「を!に!で!」の取組 ～食を!育み、食に!取り組み、食で!育む～

講習会を修了し、墨田区が主催する食育フェスティバル「に!」参画し、多様な関係者が対等な関係で一緒にイベントを創り上げる体験をしました。目的を共有し、得意分野を持ち寄り、1から一緒に考え、一緒に汗をかき、一緒に創るプロセスを通して、Win-Winの関係が生まれていくことを目の当たりにしました。多角的な視点、考え方に触れながら新しいものを創り出す体験は多くの気づきがありました。

こうしたイベントに取り組むこと「で!」みんなが主体的に関わる豊かな協働、協創の取組が実現したのです。

そして、取組が終了する度に振り返りを行い「すみだの食育」の原点に立ち戻り、その取組の意義を確認することを繰り返しながら徐々に活動の軸が育っていったのです。



実践活動から「で!」を掘り下げる

これまでの取組で何を目指したのか

食育フェスティバル

6月の食育月間に墨田区の主催で毎年行われてきた「すみだ食育フェスティバル（現「食育フェス」）。最初は区主導で始まり、その後、区と民による協働の取組へと展開していきました。実行委員会方式から運営委員会方式へと転換する中で good ネットも企画から運営に参画し、複数の班をつくり多様な関係者が関わる場づくりを担いました。そこから、展示、ランチタイムセレモニー、講習会、講演会、ワークショップなど多彩なプログラムが誕生していきました。終了後は、実施報告会、交流会を開催し、関係者の更なるつながりを深め、新たな取組が生まれていきました。

協働で実現した「を!に!」の取組



様々な団体の展示



料理教室



ランチタイムセレモニー



講習会、講演会

食育フェスティバル「で!」育まれた「協働」の芽

イベントを通して、地域の中で地道な活動をしている方々が横につながるネットワークが生まれた。

つながることに手間をかけ、参加者の「夢」や「想い」を大切にすることで、豊かな取組が生まれた。

多様な人たちと出会い、新たな発想や価値観に触れ気づきがあり、困難を乗り越える感動が生まれた。

立場や分野をこえて、一緒に創り合う楽しさ、喜び、達成感から次なる活動の原動力が生まれた。

すみだのかかし

「すみだの食育」には人と地域をつなぐ「かかし」がいます。かかしのいる風景は、どこか温かさを感じ仲間とつくり始めました。そこでは笑顔の輪が広がり人と人がつながっていきます。墨田区で「第10回食育推進全国大会 in すみだ 2015」を開催。「全国大会を山本区長さんと一緒に!」の想いから「とおる君かかし」を制作。遠い存在だった区長さんとの距離が一気に縮まりました。2019年度に北海道芽室町を訪問。ここでも人と地域をつなぐ役目を果たし生産者の「けいたさん」「ゆたかさん」をモデルにしたかかし、手島町長の「あきら君かかし」が誕生しました。2021年度は、すみだと芽室町で子どもたちによる「かかしづくり体験」を開催。かかしの誕生はお互いの地を思い合うきっかけとなりました。



goodネットが「とおる君かかし」と一緒に芽室町役場を訪問、墨田区と芽室町の交流が始まる

墨田児童会館にて芽室町の生産者と一緒に「かかしづくり体験」



かかし「で!」育むつながりと夢

かかしづくりを始めたら、仲間意識やチーム力が育まれ、仲間づくりになっていた。

かかしの「モデルになる人」「創る人」「触れる人」の3者がWin-Winの関係でつながる力が生まれた。

かかしは瞬時に人と人を笑顔でつなげ、大人も子どももお互いの地域を思いやる愛着を育んだ。

かかしを通して地域を越えた大人のネットワークが誕生し、子どもたちの夢がふくらんだ。

「で!」と出会い、新たな人生の可能性が見えてきた

「あっ、これだったんだ!」

私は、昨年まで中高年の男性向け料理教室の講師をしていました。最初は「を!」で活動していたのですが、何年かするうちに、「それだけじゃないな」と感じたのです。

講習会を受講し「を!に!で!」の話聞いて、「あっ、私が求めていたのは、これだったんだ!」と気づきました。私は「料理教室を!すること」ではなく、「料理教室で!得られること」を大切だと思っていたのです。

料理教室は、「参加者だけでなく私に

とっていきいきできる場所だったんだなって」。私が料理教室「で!」得られたことは豊かな人生だったのです。

可能性にワクワク

「食で!」という見方をするようになって、感謝の気持ちが強くなったと感じます。料理教室という場がなければ、私は参加者につながることはなかったと思います。私の人生を豊かにしてくださった方たちとのつながりは、「食で!」得られたのです。ありがたいことだと感じています。

また、食育活動に励もうという気持

ちが強くなりました。様々な活動に参加させていただき、いろいろな方と知り合えることは、私の喜びや元気につながると思うのです。講習会に参加して新たなネットワークもできました。いろいろな可能性も見えてきて、今、ワクワクしています。



濱野園子さん

2023年まで、埼玉県で6年間料理教室の講師を担当。地元墨田区で新たに活動を始めようと講習会に参加

「すみだの食育」の原点を再確認!!

「おっと、あぶない!」

受講者は、既に地域で様々な活動をしている方が多く参加されていました。食育のグループアイデアの発表に向けて、みんなで意見を共有しながらまとめていくことの難しさを感じました。



鈴木清子さん

栄養士として区内の学校給食に関わる。すみだの食育の原点を再確認するために参加

私は、出されたアイデア「を!」まとめ、発表「に!」間に合わせるといった気持ちが先に立ち、この取組「で!」何を目指すのかを見失ってしまったのです。すぐに「を!」「に!」に陥ってしまい、ゆとりがなくなり、発表に向けて不安が募りました。

育むのはチーム力と自分力だった

発表会が近づき、私たちのグループは寸劇を活用して発表することになりました。そこで、グループで出たアイデアを台本に起こし、みんなで粘り強く話し合うことで、徐々に同じ方向で意見を出し合えるようになりました。

このプロセスに手間をかけることで、1つのことを成し遂げるチーム力へと変化していきました。グループ発表は、発表「を!」目的にすると同時に、発表に至るプロセス「で!」チーム力を育むことを目的にしていたのだと気づきました。

「すみだの食育」は、「食を!育む」、「食育に!取り組む」と同時に、そのプロセス「で!」何を育むのかを大切にしていたのです。

「を!に!」と「で!」の両方を意識して食育活動に臨む「を!に!で!」を学び、「すみだの食育」の原点を再確認することができ、新たな取組にチャレンジする希望が湧いてきました。

「すみだの食育」の15年を振り返って

「豊かな人生を 生き抜く力」が湧いた!

すみだ食育推進リーダーとして「すみだの食育」に関わり、楽しくも困難と思われる出来事もありながら、出会った人々と一緒に創り上げる体験を通して、やりがいや生きがいを感じ、夢と希望を持ち続けることができました。これらの体験から、「豊かな人生を生き抜く力」が湧いてきました。